



在宅での排泄介助に関する困りごと調査

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

【本件に関するお問い合わせ】特定非営利活動法人日本トイレ研究所

E-mail contact_us@toilet.or.jp

本資料を転載・引用される際は上記までご連絡の上、クレジット表記をお願いいたします。

調査概要

目 的 : 在宅介護における排泄介助の実態把握

対 象 : 在宅介護において排泄介助を実施している40~70代の男女

地 域 : 全国

期 間 : 2022年11月4日から11月7日

方 法 : インターネット調査

回 答 数 : 500サンプル

実施主体 : 特定非営利活動法人日本トイレ研究所

結果概要

■排泄介助に関する困りごと

「尿失禁がある」（32.8%）が最も多く、次いで「足腰が弱り、トイレに行くまでに時間がかかる」（29.4%）、「おむつから尿が漏れる」（29.4%）であった。

■排泄介助に関する困りごと【介護者年齢別】

「昼間・夜間に頻繁にトイレに行く」、「便秘」、「おむつやパッドの選び方・使い方が分からぬ」は介護者の年齢が低くなるほど多くなり、「尿・便失禁がある」、「肛門や陰部の肌が荒れる・かぶれる」、「特にない」は、介護者の年齢が高くなるほど多くなった。

■排泄介助に関する困りごと【異性介護】

女性が男性を介助する場合の方が、男性が女性を介助する場合に比べて、困りごとを抱えていることが多かった。

■排泄介助に関して事前に知っておきたかったこと

「体の支え方・移動の仕方」（26.0%）が最も多く、次いで「おむつからの漏れへの対処方法」（24.8%）、「尿失禁への対処方法」（24.6%）であった。

■水洗トイレに関する悩み

「水洗トイレを汚した場合の掃除が大変」（35.3%）が最も多く、次いで「水洗トイレが狭くて介助しづらい」（32.0%）、「水洗トイレのにおいを改善したい」（25.9%）であった。

■ポータブルトイレに関する悩み

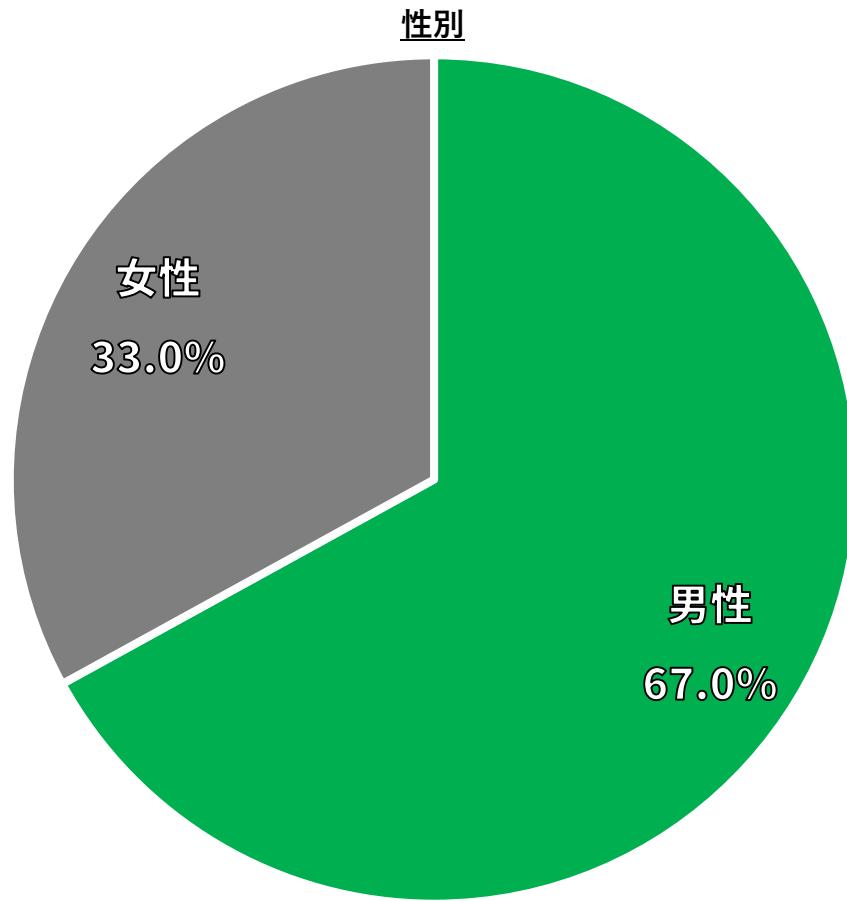
「ポータブルトイレのにおいを改善したい」（36.5%）が最も多く、次いで「ポータブルトイレが掃除しづらい」（29.9%）、「ポータブルトイレの便座の高さを変えたい」（29.1%）であった。

■排泄介助に関する情報の取得先

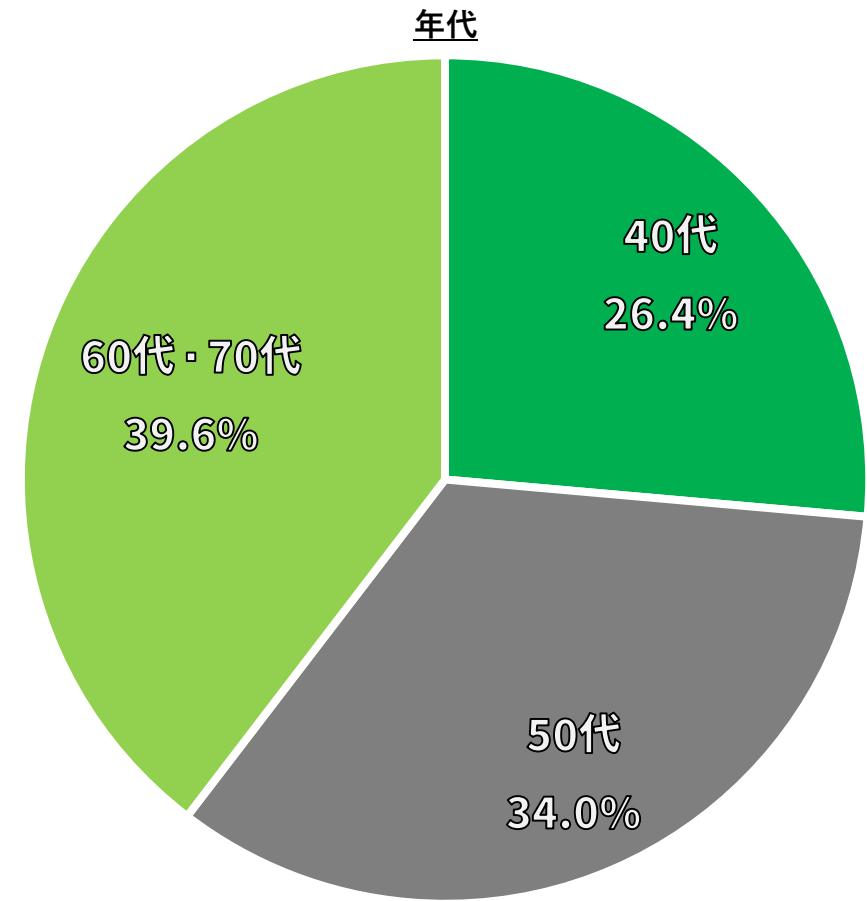
「介護支援専門員（ケアマネージャー）」（54.4%）が最も多く、次いで「ヘルパー」（35.8%）、「インターネット」（30.6%）であった。

回答者属性

回答者500人のうち、性別は「男性」が335人（67.0%）、「女性」が165人（33.0%）であった。年代は、「40代」が132人（26.4%）、「50代」が170人（34.0%）、「60・70代」が198人（39.6%）であった。



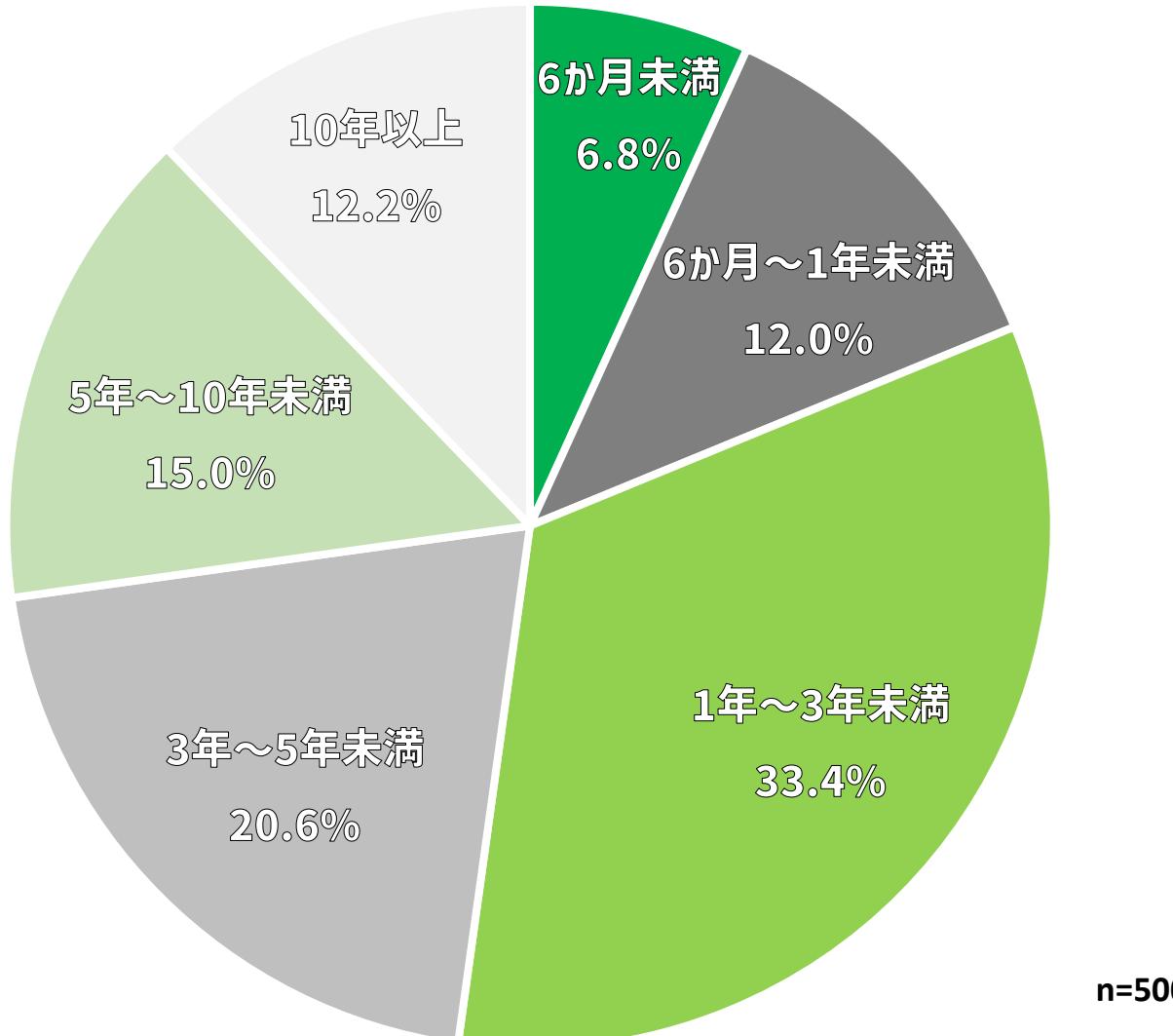
n=500



在宅介護に携わっている期間

「1年～3年未満」（33.4%）が最も多く、次いで「3年～5年未満」（20.6%）、「5年～10年未満」（15.0%）であった。

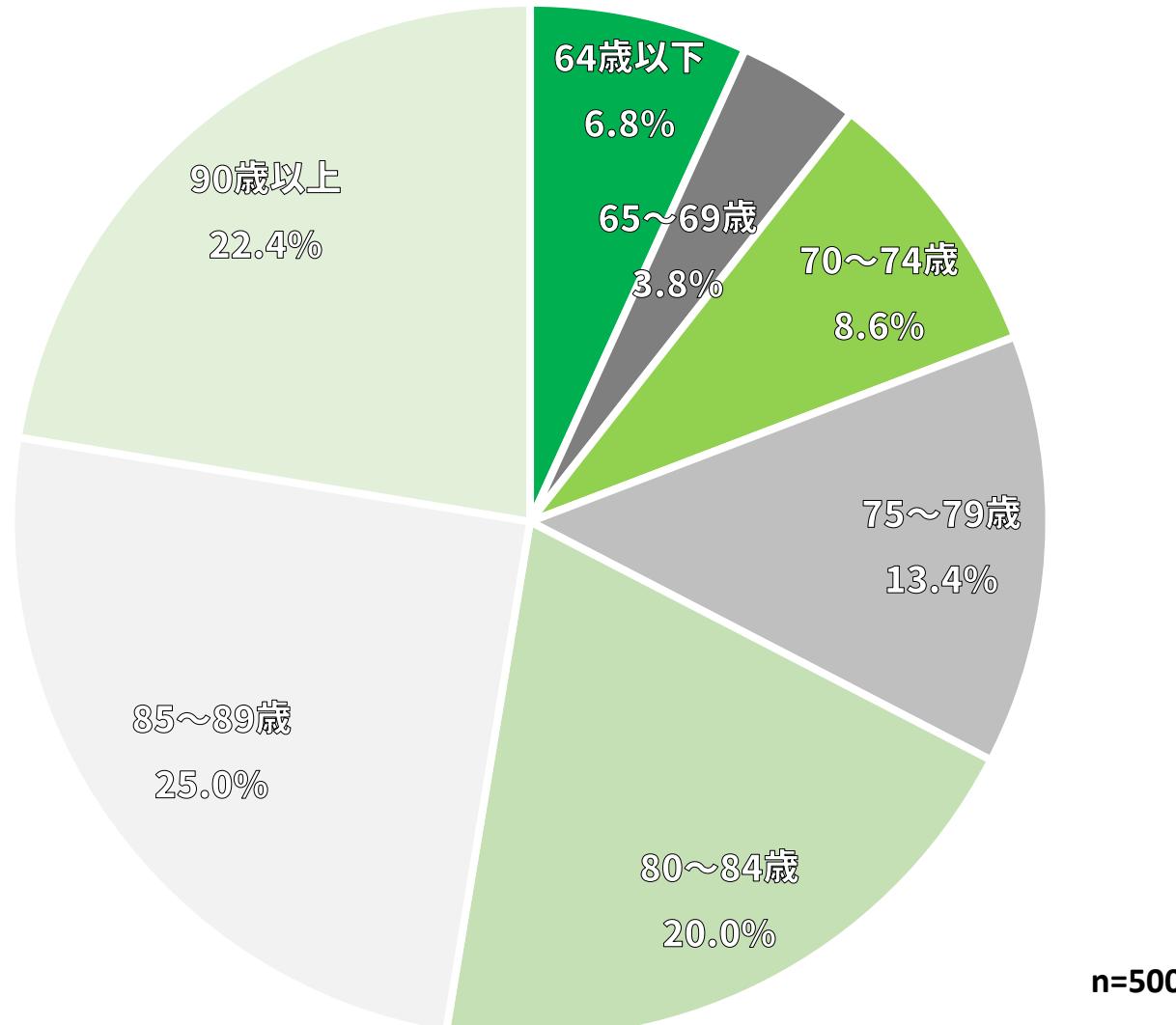
あなたは在宅での介護に携わってどのくらいですか(SA)



被介護者の年齢

「85～89歳」（25.0%）が最も多く、次いで「90歳以上」（22.4%）、「80～84歳」（20.0%）であった。

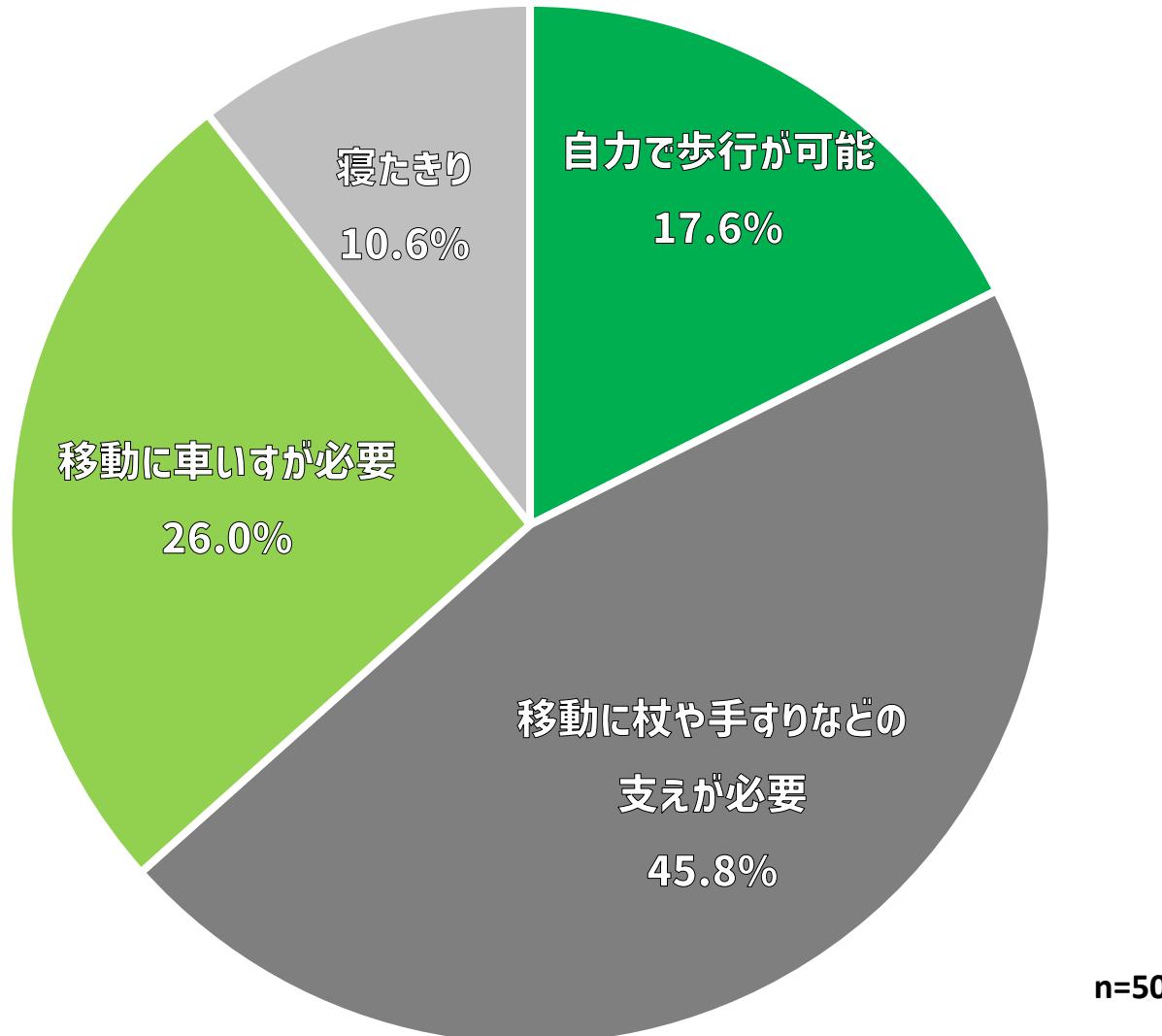
あなたが、在宅で介護している方の年齢はいくつですか(SA)



被介護者の日常での移動手段

「移動に杖や手すりなどの支えが必要」（45.8%）が最も多く、次いで「移動に車いすが必要」（26.0%）、「自力で歩行が可能」（17.6%）であった。

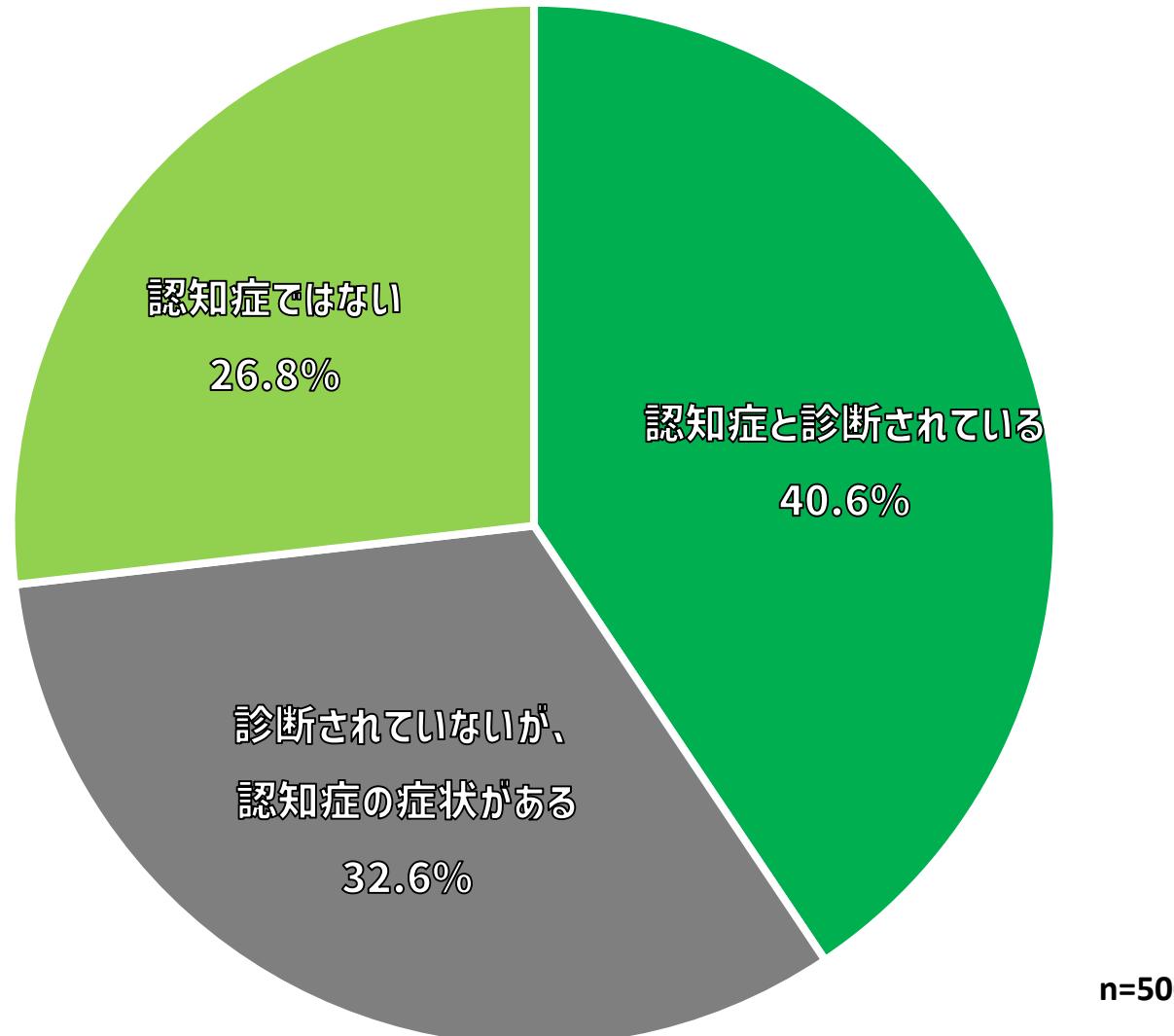
あなたが、在宅で介護している方は、日常生活でどのように移動されますか(SA)



認知症の有無

「認知症と診断されている」（40.6%）が最も多く、次いで「診断されていないが、認知症の症状がある」（32.6%）、「認知症ではない」（26.8%）であった。

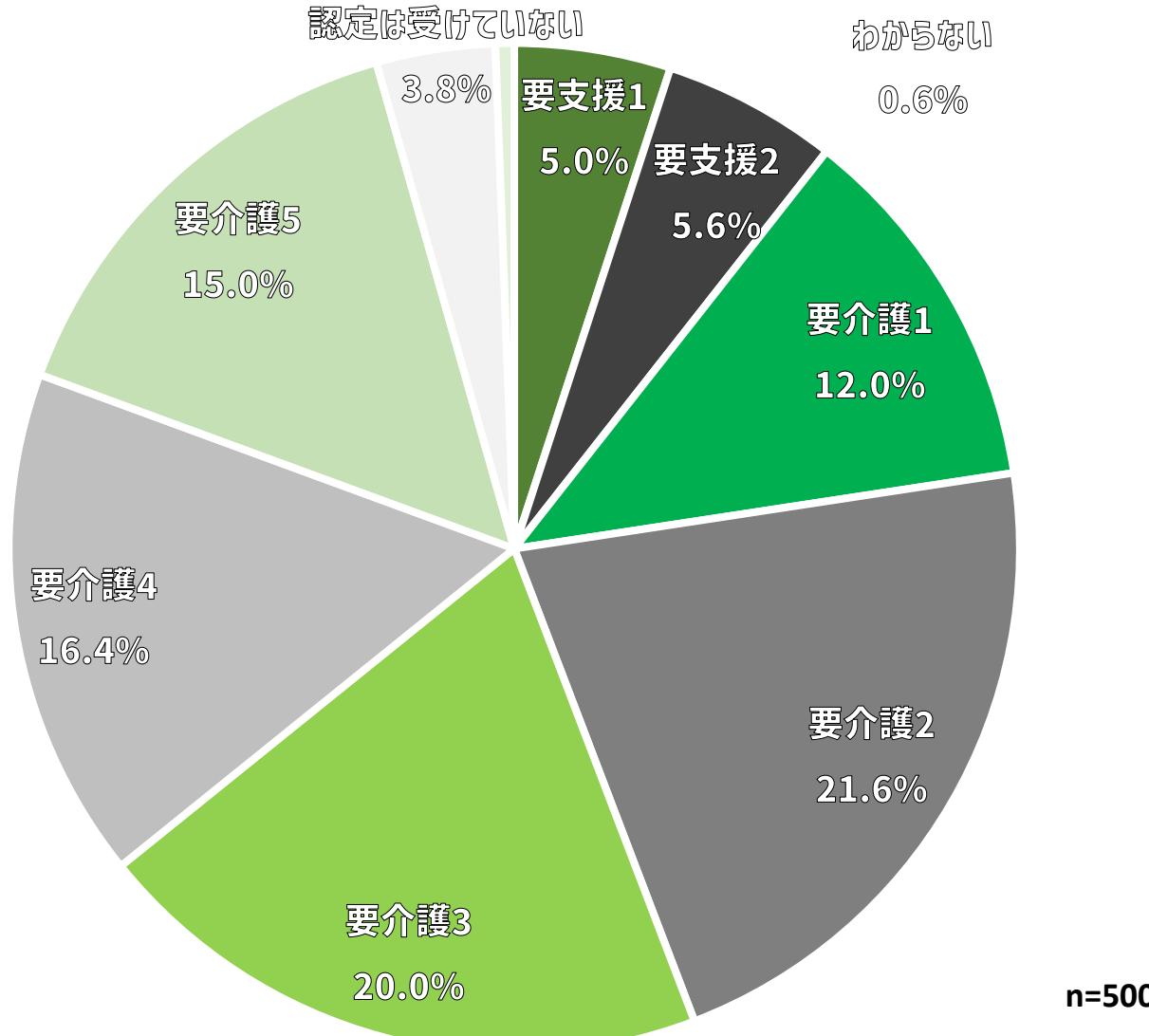
あなたが、在宅で介護している方は、認知症ですか(SA)



被介護者の要介護認定状況

「要介護2」（21.6%）が最も多く、次いで「要介護3」（20.0%）、「要介護4」（16.4%）であった。

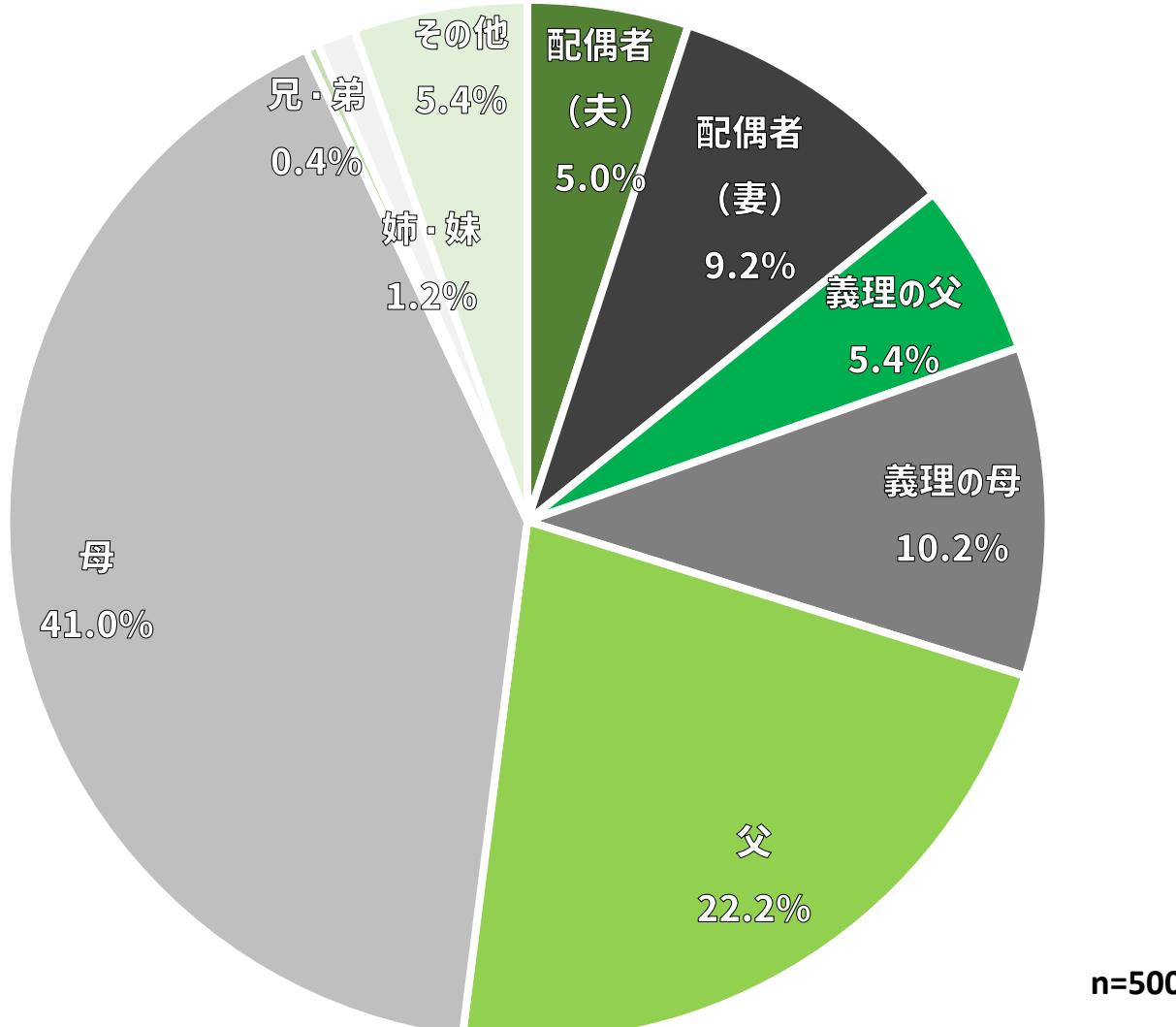
あなたが、在宅で介護している方は、介護保険制度の要介護認定を受けていますか(SA)



被介護者との関係

「母」（41.0%）が最も多く、次いで「父」（22.2%）、「義理の母」（10.2%）であった。

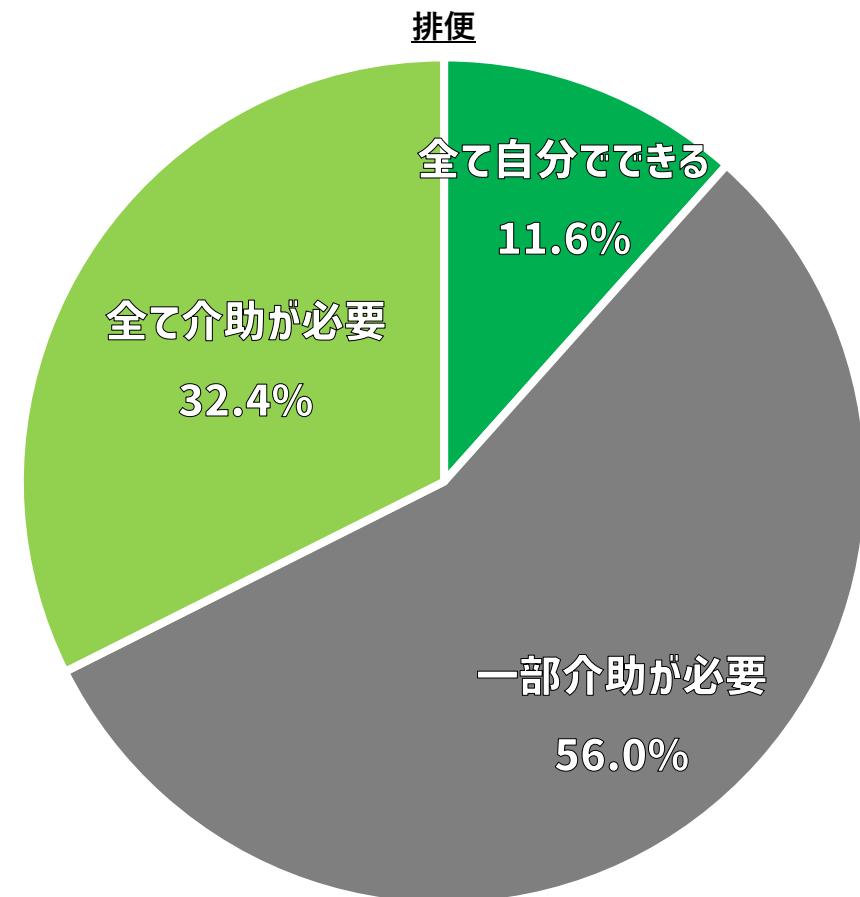
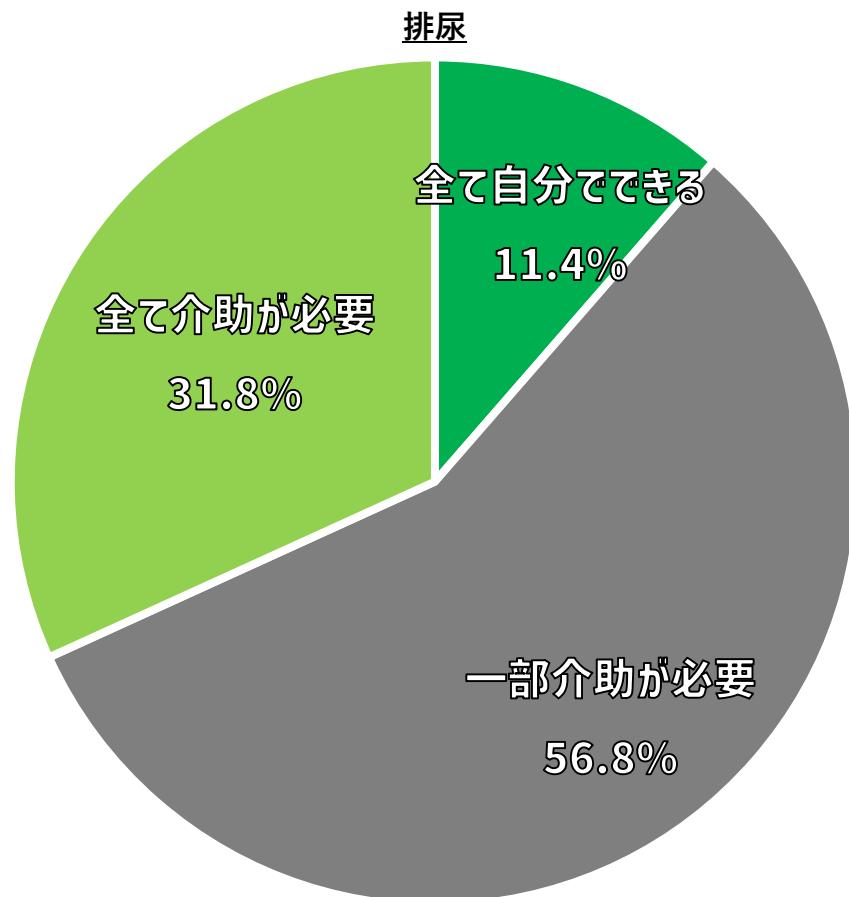
あなたが、在宅で介護している方は、あなたからみてどのようなご関係ですか(SA)



排泄の自立度

「一部介助が必要」が最も多く、次いで「全て介助が必要」、「全て自分でできる」であった。

あなたが、在宅で介護している方は、排尿・排便（衣服の着脱、排尿・排便、後始末等）をご自分でできますか(SA)

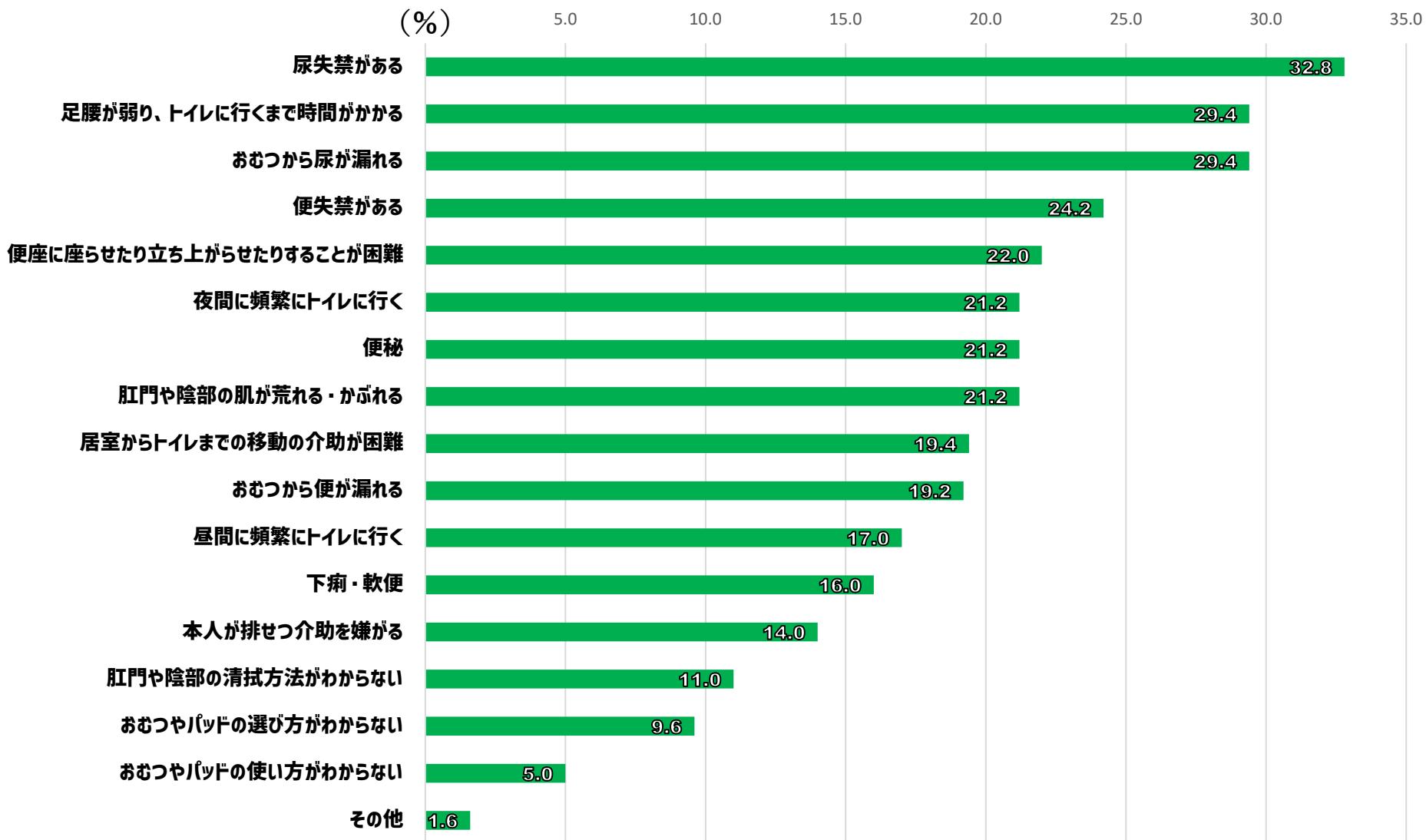


n=500

排泄介助に関する困りごと

「尿失禁がある」（32.8%）が最も多く、次いで「足腰が弱り、トイレに行くまでに時間がかかる」（29.4%）、「おむつから尿が漏れる」（29.4%）であった。

あなたが、在宅で介護している方の排せつ介助に関して、困っていることや悩みをお答えください(MA)



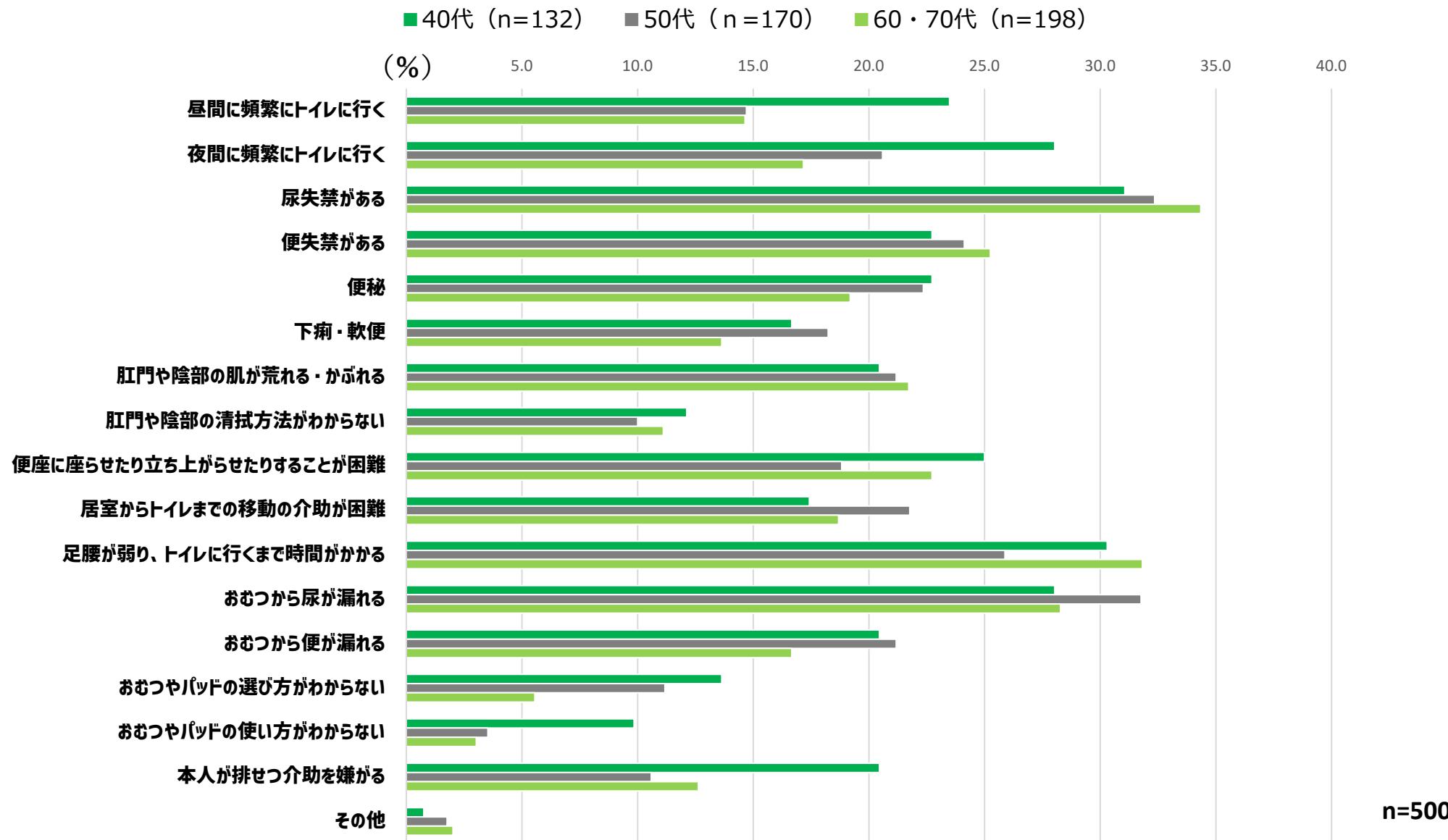
排泄介助に関する困りごと【日常での移動手段別】

	全体	自力で歩行が可能	異動に杖や手すりなど支えが必要	移動に車いすが必要	寝たきり
1	尿失禁がある 32.8%	おむつから 尿が漏れる 31.8%	尿失禁がある 40.2%	便座に座らせたり 立ち上がらせたり することが困難 32.3%	肛門や陰部の 肌が荒れる かぶれる 26.4%
	足腰が弱り、 トイレに行くまで 時間がかかる 29.4%	尿失禁がある 30.7%	足腰が弱り、 トイレに行くまで 時間がかかる 38.4%	尿失禁がある 28.5%	おむつから 尿が漏れる 24.5%
3	おむつから 尿が漏れる 29.4%	便失禁がある 22.7%	おむつから 尿が漏れる 31.4%	足腰が弱り、 トイレに行くまで 時間がかかる 28.5%	下痢・軟便 22.6%
	便失禁がある 24.2%	肛門や陰部の 肌が荒れる かぶれる 22.7%	夜間に頻繁に トイレに行く 28.4%	便秘 27.7%	おむつから 便が漏れる 22.6%
5	便座に座らせたり 立ち上がりせたり することが困難 22.0%	足腰が弱り、 トイレに行くまで 時間がかかる 21.6%	便失禁がある 25.3%	おむつから 尿が漏れる 26.2%	便秘 20.8%

n=500

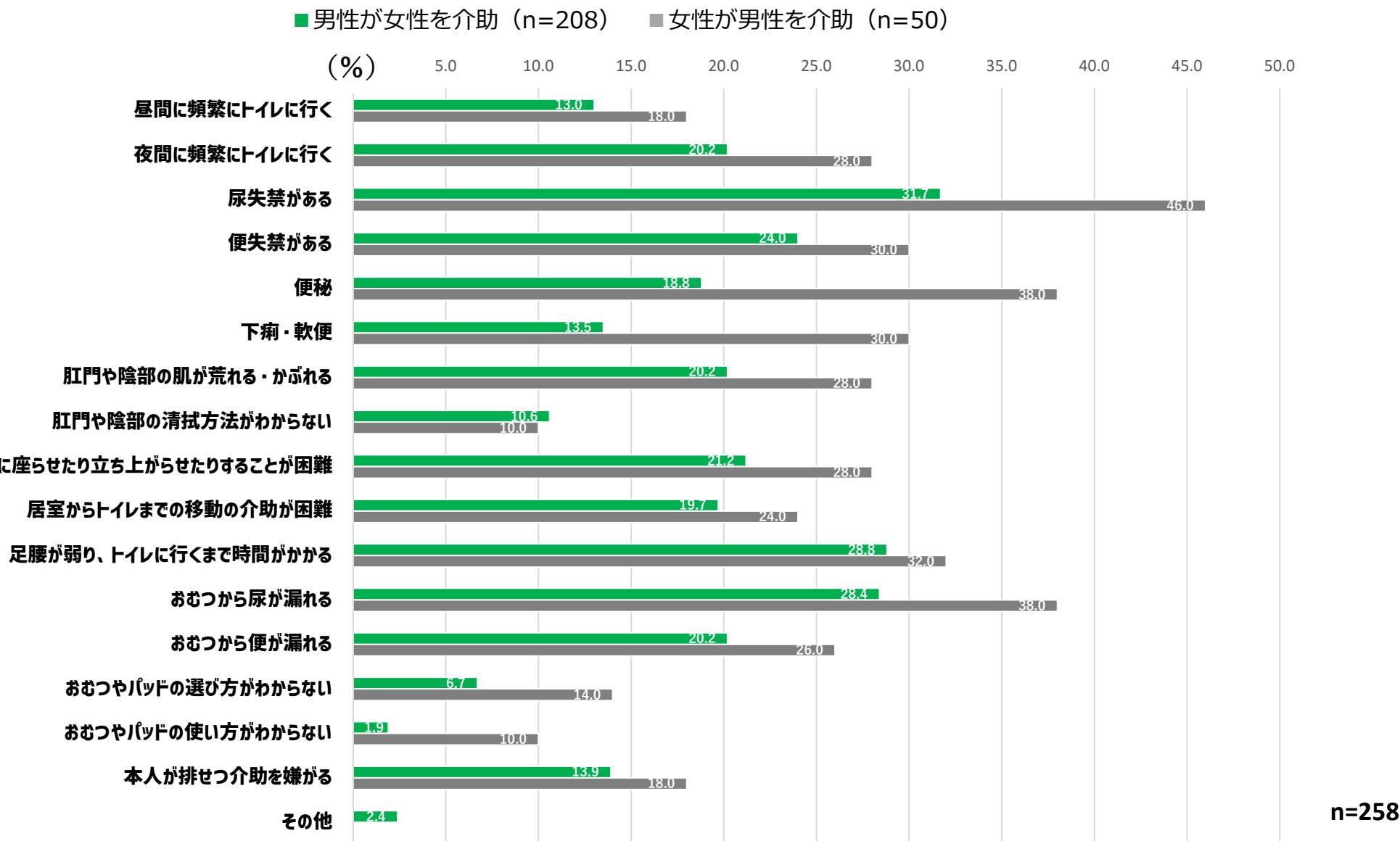
排泄介助に関する困りごと【介護者年齢別】

「昼間に頻繁にトイレに行く」、「便秘」、「おむつやパッドの選び方・使い方が分からぬ」は介護者の年齢が低くなるほど多くなり、「尿・便失禁がある」、「肛門や陰部の肌が荒れる・かぶれる」、「特にない」は、介護者の年齢が高くなるほど多くなった。



排泄介助に関する困りごと【異性介護】

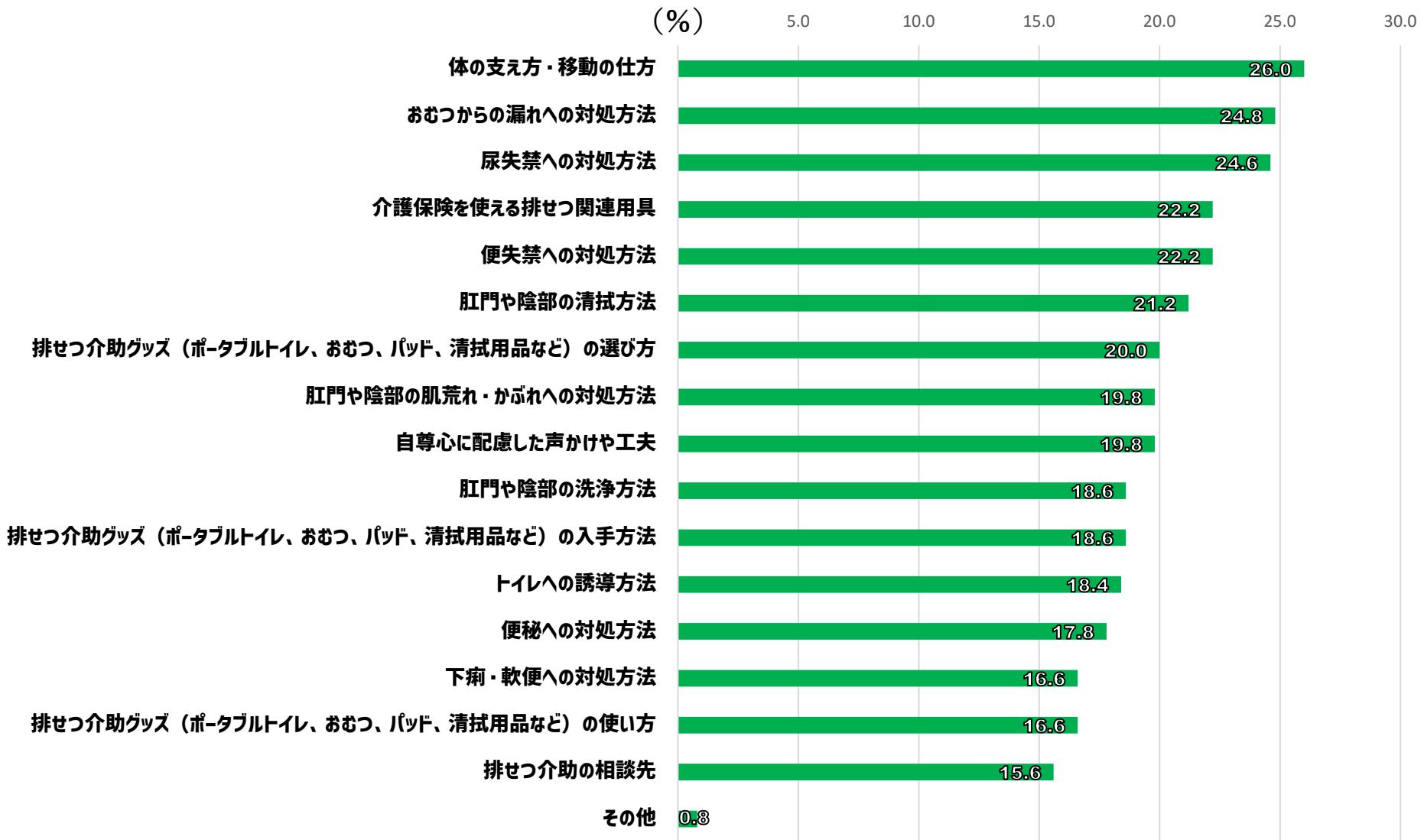
女性が男性を介助する場合の方が、男性が女性を介助する場合に比べて、困りごとを抱えていることが多かった。



排泄介助に関して事前に知っておきたかったこと

「体の支え方・移動の仕方」（26.0%）が最も多く、次いで「おむつからの漏れへの対処方法」（24.8%）、「尿失禁への対処方法」（24.6%）であった。

あなたが、排せつ介助に関する前に知りたかった情報をお答えください(MA)

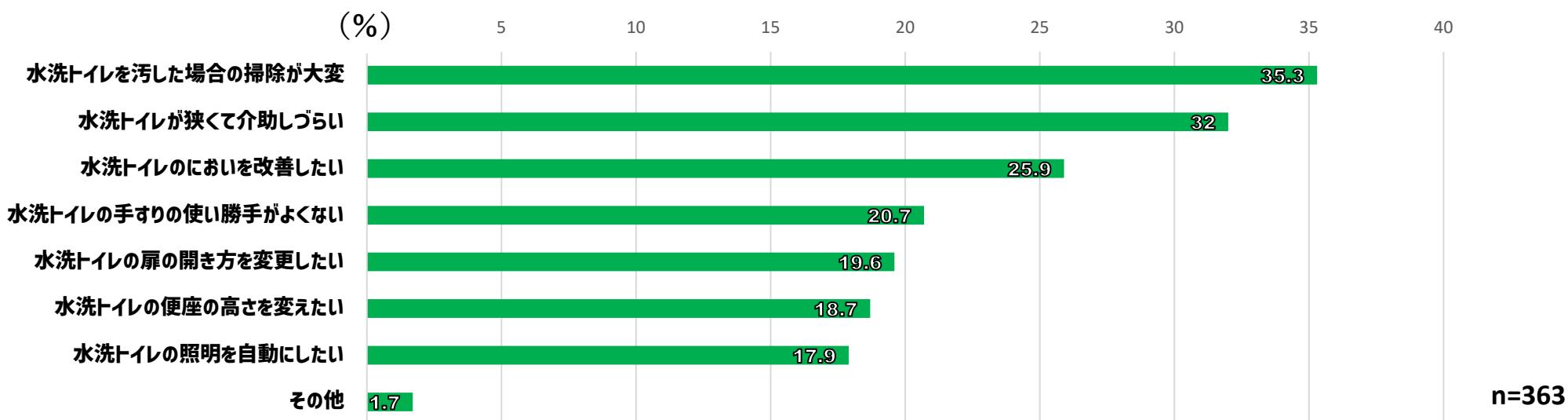


水洗トイレ・ポータブルトイレに関する悩み

排せつ介助に関し、水洗トイレとポータブルトイレに関する悩みがあれば、
当てはまるものをすべてお選びください(MA)

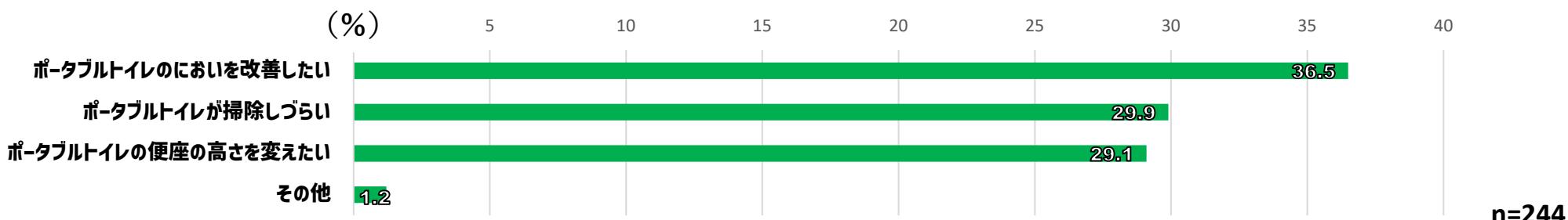
①水洗トイレを使用している人

「水洗トイレを汚した場合の掃除が大変」（35.3%）が最も多く、次いで「水洗トイレが狭くて介助しづらい」（32.0%）、「水洗トイレのにおいを改善したい」（25.9%）であった。



②ポータブルトイレを使用している人

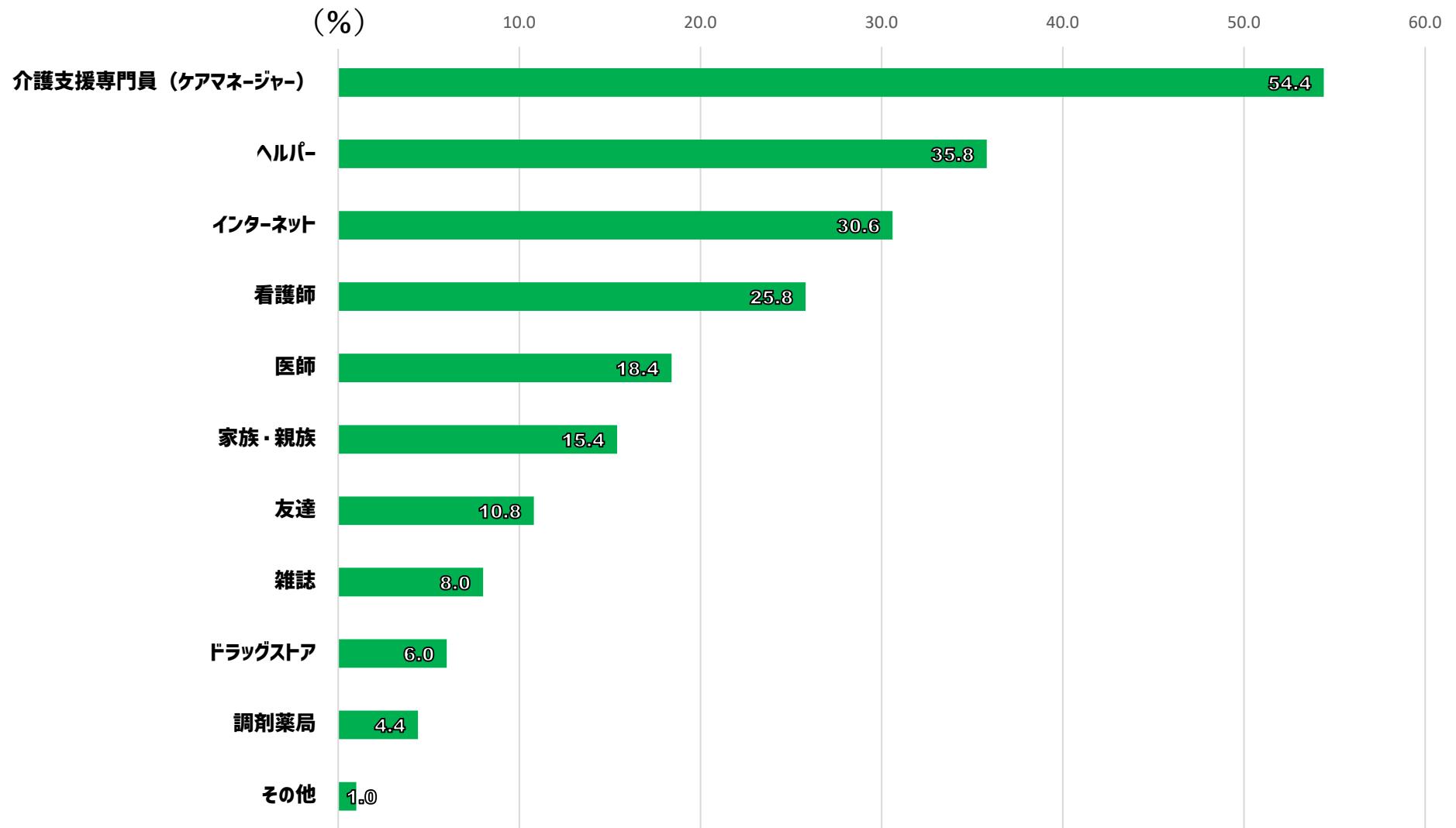
「ポータブルトイレのにおいを改善したい」（36.5%）が最も多く、次いで「ポータブルトイレが掃除しづらい」（29.9%）、「ポータブルトイレの便座の高さを変えたい」（29.1%）であった。



排泄介助に関する情報の取得先

「介護支援専門員（ケアマネージャー）」（54.4%）が最も多く、次いで「ヘルパー」（35.8%）、「インターネット」（30.6%）であった。

排せつ介助に関わる情報は誰から（どこから）得ていますか(MA)



排便は、食事・睡眠・運動と同様に、生きる上で欠かすことのできない生理現象です。しかし、大人も子どもも排便について学ぶ機会はほとんどなく、日常会話でも隠される傾向にあります。また、排便回数や排便状態、排便疾患に関する基本的なデータが十分ではありません。そこで日本トイレ研究所では、排便をとおして健康や生活リズムを整えることを目的にした啓発活動「うんちweek2022」を実施しました。

■ うんちweek2022 実施概要

期 間 2022年11月10日(木)～11月19日(土)

(11月10日：いいトイレの日)～(11月19日：国連・世界トイレの日)

内 容 特設サイト・イベントでの情報発信、排便記録の呼びかけと排便記録の集計

主 催 特定非営利活動法人日本トイレ研究所

協 賛 EAファーマ株式会社、株式会社ビー・エス・ケイ、

カルビー株式会社、小林製薬株式会社、マグミット製薬株式会社、

イチジク製薬株式会社、株式会社ケンユー、野村乳業株式会社（順不同）

協 力 ウンログ株式会社



特定非営利活動法人日本トイレ研究所 www.toilet.or.jp

「トイレ」をとおして社会をより良い方向へ変えていくことをコンセプトに活動しているNPO団体です。
近年は「子どものトイレ・排泄環境」「災害時のトイレ・衛生環境」「街なかのバリアフリーなトイレ環境」に力を入れています。